デジタル庁令和6年度教育データ連携の実現に向けた実証調査研究 実証Ⅰ

# 校務支援システム等のアカウント連携までのモデルスケジュール概要

富士ソフト株式会社

2025年3月27日

Copyright ©2025 FUJISOFT INCORPORATED ,publi inc. All rights reserved.

# 1-1. 本書の位置付け

**■本モデルスケジュールの使い方**

本資料は、「令和6年度教育データ連携の実現に向けた実証調査研究」の一部として作成したものであり、自治体・教育委員会等においてデータ連携・利活用を推進する際のファーストステップとして、アカウント連携を実現する際のご参考として利用していただくためのものです。そのために、実際にデータ連携取り組む自治体を参考モデルとして、実現の手順やスケジュール、データ連携のためのポイントをまとめています。

本書においては、国際標準規格※を実装することで連携を実現する方法を推奨しています。
しかし、自治体ごとにシステム導入やデータ連携・利活用の実現状況が異なりますので、参考にしていただきつつ、各自治体の実情にあわせて実践していただくことを想定しています。

※デジタル庁では国際標準である1Edtech Consortium（および日本1Edtech協会）の技術標準を採用した技術実証や実証事業に令和4年より継続的に取り組んできています。

Copyright ©2025 FUJISOFT INCORPORATED ,publi inc. All rights reserved.

# 1-2.本モデルスケジュール策定の背景・目的

**背景**

- デジタル庁及び関係省庁は、教育関係者の繁忙解消と、学習者の学びの質の向上に向け、教育データ連携・利活用を推進している。一方、その実現や推進の状況については、自治体・学校ごとにばらつきがあり、未だ進展が限定的な自治体も少なくない。
- 実現には、学校関係者への意義の理解促進と、学校関係者が多忙な中でも推進するための方法の提示が求められている。

**目的**

- 教育データ連携・利活用の推進に向けたアカウント連携の実現に、必要な業務、推進上の課題と学校関係者の現業を把握したうえで、メリットを具体化し、令和5年度にモデルスケジュールを作成した。
- 令和6年度では、実際にアカウント連携実証に取り組む自治体を参考モデルとして、ブラッシュアップを行い、業務削減の効果や、実現の手順やスケジュール、アカウント連携のためのポイントを整理する。

**令和6年度のモデルスケジュール（本資料等）**

Copyright ©2025 FUJISOFT INCORPORATED ,publi inc. All rights reserved.

# 1-3. モデルスケジュールの策定経緯と今後の教育データ利活用への期待

## ■モデルスケジュールの策定経緯

令和5年度
教育データ連携・利活用の効果的な実施に向けた
業務の標準的なスケジュールに関する調査研究

（改善）

令和6年度
教育データ連携の実現に向けた実証調査研究
（**本資料に該当**）

〇ポイント
- 国際標準規格※に適合した製品を活用することで、アカウント連携を実現するためのモデルスケジュールを調査
- 自治体・教育委員会等においてデータ連携・利活用に取り組むファーストステップとして、アカウント連携を推進する参考資料としてとりまとめ

〇インプット情報
- 本実証の実証Ⅰ（茨城県つくば市での実証）の実証成果
- 自治体への追加ヒアリング（3自治体にて実施）
- 有識者へのヒアリング

〇ポイント
- 実際にアカウント連携に取り組む自治体を参考モデルとして、ブラッシュアップ
- 業務削減の効果や、実現の手順やスケジュール、アカウント連携のためのポイントを整理。

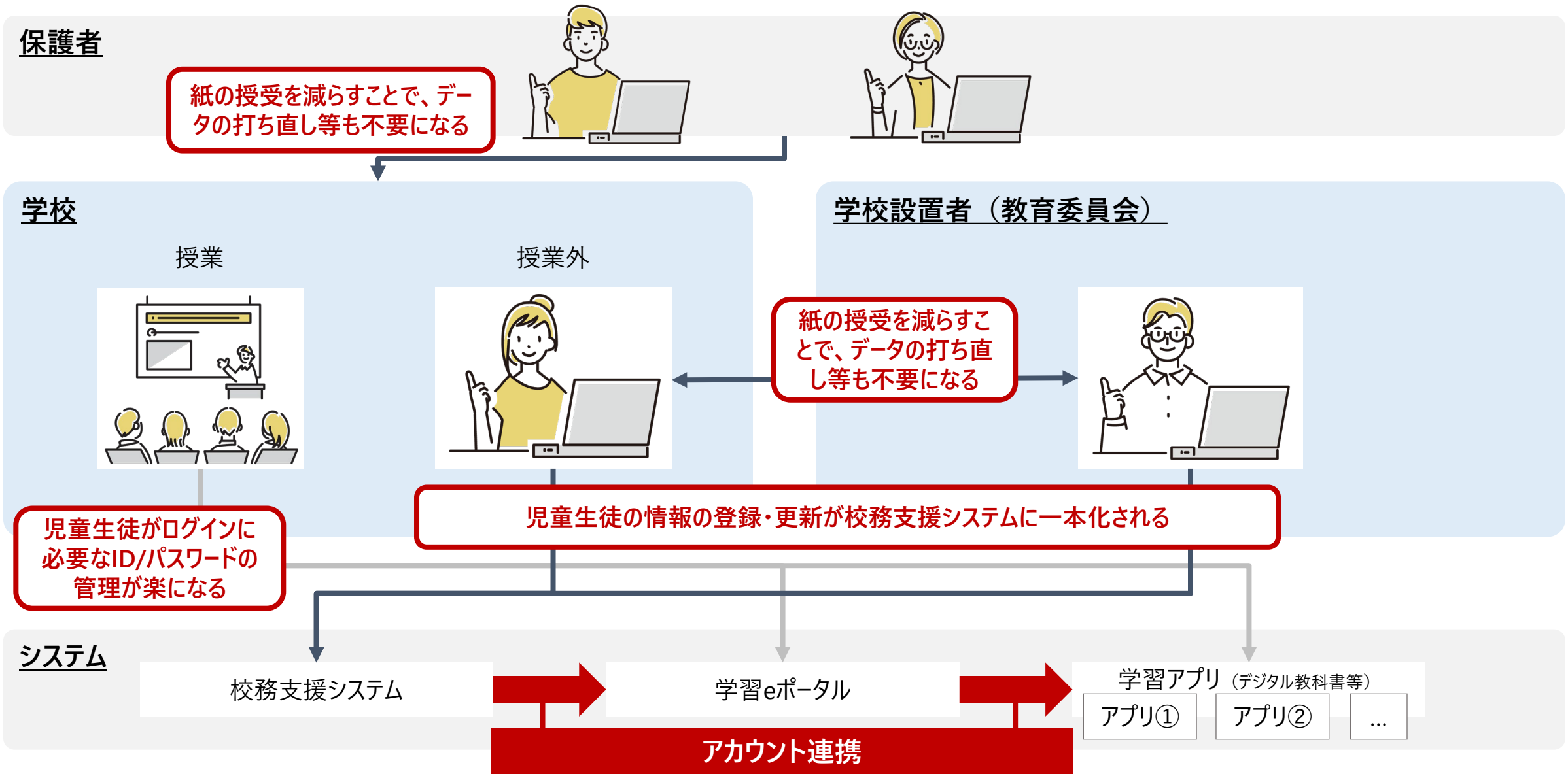
## ■今後の教育データ利活用への期待

- 教育データの利活用は、今後一層必要性が増してくることが想定される
- データ連携の肝となる名簿データの連携を効率的に実施できることは、あらゆるデータ利活用につながる第一歩
- 名簿データの連携を各自治体における教育データ利活用の将来的な構想の検討の契機に

※デジタル庁では国際標準である1Edtech Consortium（および日本1Edtech協会）の技術標準を採用した技術実証や実証事業に令和4年より継続的に取り組んでいます。

Copyright ©2025 FUJISOFT INCORPORATED ,publi inc. All rights reserved.

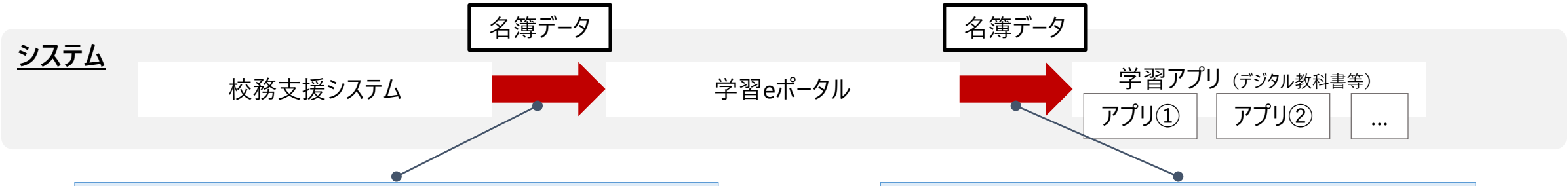
# 2-1. 校務支援システム等のアカウント連携 ～アカウント連携の想定イメージ～




Copyright ©2025 FUJISOFT INCORPORATED ,publi inc. All rights reserved.

## 2-2. 校務支援システム等のアカウント連携 ～今回関連する標準規格のかんたん解説～

システム間のデータ連携を実現するために、必要最低限の情報を、安全に連携することが重要。
すでに教育現場に実装実績のある標準規格を活用することで、教職員の作業負担の大幅な軽減が見込めます。




### OneRoster（わんろすたー）

「Roster」は名簿のこと。
主に初等中等教育において、クラス名簿や、成績等の相互運用を可能にするための技術標準。

これを活用すると名簿等の必要情報が簡単に連携可能に。定期的に更新することで、情報も常に最新状態に。

### LTI（えるてぃーあい）

LMS （学習eポータル等）と学習アプリ等の相互運用を実現する技術標準。

LMSとの同一アカウントでログイン（シングルサインオン）できるようになるとともに、名称・学年・クラス等に関する情報を学習アプリと共有することができる。

Copyright ©2025 FUJISOFT INCORPORATED ,publi inc. All rights reserved.

# 2-3. 校務支援システム等のアカウント連携
## ～アカウント連携の導入効果と理想的なアカウント連携・データ移行のタイミング　サマリ～

## アカウント連携の導入効果

**アカウント連携の導入効果**

**① 学習の質向上**

（アカウント情報がわからない等で）
授業が止まりづらい

**② 教員等への負担軽減**

アカウント登録や更新が
必要なシステムが減る

**③ セキュリティリスク低減**

煩雑な紙のやり取りが減る

詳細

**教員等への負担軽減の事例**

**a) 保護者からの情報収集のデジタル化**

**b) 次年度の入学者名簿のやり取りのデジタル化**

**c) 進級時のアカウント更新の校務支援システムへの一本化**

**d) 転出入情報のやり取りのデジタル化・効率化**

## 理想的なアカウント連携・データ移行のタイミング（例）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 翌4月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ここまでに校務支援システムの設定作業は終える→（新たに調達する場合） | | | | | | ここまでにアカウント連携の設定作業は終える→（新たに調達する場合、データ移行も含む） | | | | | | |
| **準備作業**（委託先ベンダー） | 調達～契約～環境構築・設定<br>※ 調達・契約・ベンダ側での作業にかかる期間は各自治体ごとの事情で異なるため、要確認 | | | | | | 事前データチェック、データクレンジング・修正、アカウント連携の設定、データ移行（在校生分） | | | | | | |
| **関連業務**（学校・学校設置者） | | | | | | | 事前データチェック、データ修正内容の確認・調整<br>次年度新入生の名簿情報の登録 | | | | 進級情報の反映 | | 学級編成等の反映 |

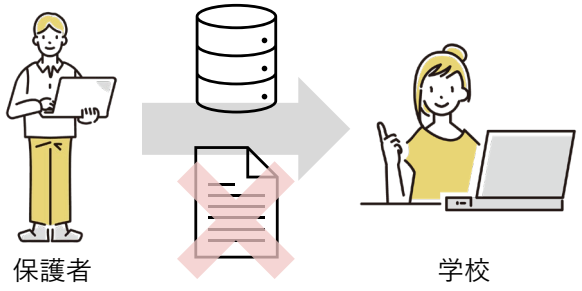
Copyright ©2025 FUJISOFT INCORPORATED ,publi inc. All rights reserved.

# 2-3（サマリの補足）. アカウント連携後の業務イメージ（As-IsとTo-beの比較）

年度末/年度の始まりの業務繁忙時期において、アカウントに関する業務の負担を大きく軽減することが期待できます。

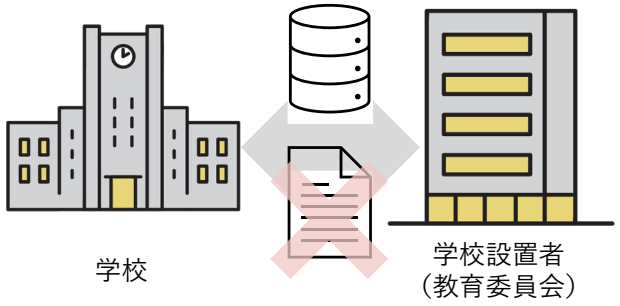
## a）保護者からの情報収集のデジタル化

✓ 保護者からの情報を極力データで提出してもらい、データとして打ち直す作業を削減する。



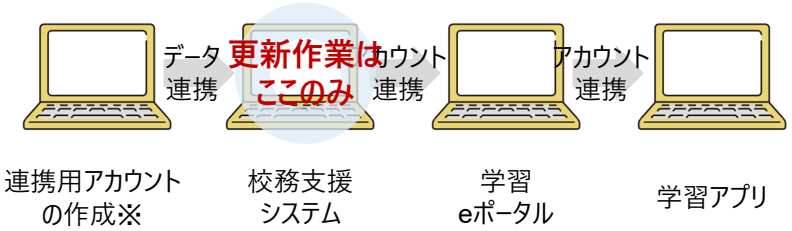

## b）次年度の入学者名簿のやり取りのデジタル化

✓ 学校と学校設置者（教育委員会）間のやり取りをデジタル化し、データとして打ち直す作業を削減する。




## c）進級時のアカウント更新の校務支援システムへの一本化

✓ アカウント連携によって、進級時のアカウント更新作業を校務支援システムのみで行い、その結果を学習eポータル等に連携する。




※OSのログインアカウント等既存のものが活用可能

## d）転出入情報のやり取りのデジタル化・効率化

✓ a～cによる業務変化に伴い、児童生徒の転出入によるシステムのアカウント登録・削除の作業が効率化される。

Copyright ©2025 FUJISOFT INCORPORATED ,publi inc. All rights reserved.

# 2-4. アカウント連携の補足 ～理想的なアカウント連携・データ移行のタイミング（例）～

次年度の情報を登録するまでに校務支援システムにデータの登録が可能な状態にし、進級時のアカウント更新までにデータ移行を終えるスケジュールでの進行を推奨します。

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月　翌4月

▼校務支援システムの設定作業の期限（新たに調達する場合）

▼アカウント連携の設定作業の期限（新たに調達する場合、データ移行も含む）

**自治体**

**学校設置者**

転出入によるアカウントの登録・削除（該当者がいれば随時）

GIGAアカウント発行の事務フローを含め業務の見直しが必要！

次年度の入学者名簿の作成

事前データチェック、データ修正内容の確認・調整

進級時のアカウント更新（年度末の場合が多い）

アカウント連携によって負担軽減

**学校**

転出入によるアカウントの登録・削除（該当者がいれば随時）

保護者からの追加情報の収集・アカウント登録作業（新入生分）

進級時のアカウント更新（年度末の場合が多い）（学校で実施する場合）

保護者からの追加情報の収集・アカウント登録作業（新入生分）

アカウント連携によって負担軽減

**委託先ベンダー**

調達～契約～環境構築・設定

※ 調達・契約・ベンダ側での作業にかかる期間は各自治体ごとの事情で異なるため、要確認

事前データチェック、データクレンジング・修正、アカウント連携の設定、データ移行（在校生分）

Copyright ©2025 FUJISOFT INCORPORATED ,publi inc. All rights reserved.